

戦没者慰霊碑 新潟の塔 建立経緯と活動概要

令和7年11月17日



新潟の塔奉賛会会長
改修実行委員会会長 石井 修

令和6年11月撮影

先の大戦

沖縄は太平洋戦争最後の激戦地であり、日本本土で唯一、全国民が戦い多くの犠牲者を出した島。新潟県出身の戦没者は沖縄で1,117柱、南方諸地域で40,843柱、合計41,960柱にのぼります。

主な南方諸地域（戦没者が多い順）

(1) ルソン島（フィリピン）	8,057人
(2) ビルマ（現ミャンマー）	5,563人
(3) ガダルカナル島	2,849人
(4) ニューギニア	1,762人
(5) インド	1,487人
(6) レイテ島（フィリピン）	1,444人
(7) 硫黄島	578人

慰霊塔建立の経緯

摩文仁の丘周辺は特に激戦地で、全国からの混成部隊が戦ったため、各都道府県が慰霊碑を建立し、昭和47年の沖縄復帰時までには本県以外はすべて建立済みとなりました。昭和50年、「新潟県の戦没者慰霊塔を建てる会」が結成され、同年12月に塔が建立、翌年1月に除幕式が行われました。（園地を含めた全体は、昭和51年12月に竣工）

慰霊活動と改修

新潟の塔は遺族や県民の心の拠り所となり、毎年11月に慰霊祭が開催されています。平成27年には、南方戦没者の調査地図を示す碑文の更新や新設など、大規模な改修が県民の募金により実施されました。

令和7年の節目での新潟の塔の改修と平和継承

令和7年は終戦80周年、新潟の塔建立50周年という節目の年です。この機会に塔を改修し、不戦の誓いを新たにするとともに、若い世代が訪れ、戦争の悲惨さと平和の大切さを学ぶ場となり、次世代へと伝えることが期待されています。

県民募金の状況

戦没者の英霊に対する深い感謝と追悼の意を表し、平和な社会を維持する決意を新たにすることは、私たちが未来に向けて果たすべき重要な責務です。この思いを形にするため、令和7年の節目にあたり「新潟の塔」の改修事業を進めてまいります。

現在、募金等※の総額は、皆様からの温かいご支援のもと、960万円を超えており、必要な改修を着実に進めているところでありますが、将来にわたる維持管理も含め更なる支援の輪が必要です。

県民の皆様幅広くご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

※新潟県、新潟県市長会、新潟県町村会からの支援金含む

新潟の塔改修の状況

新潟の塔本体



本体・玉砂利・石畳の洗浄、文字墨入れ、土台の歪み補修。

地図入り碑文



調査地図のチタンプレートの変色は薬品や銅の影響によるもの。変色に強い色で再度色付けし、設置。

その他

今後、園地のブロックの歪み補修や大木の伐採等を実施。